



めくると、いつだって新たな出会い

10月27日から11月9日は「読書週間」

10月27日から11月9日は読書週間です。この全国的な取組は、今年で第80回を迎えます。

さまざまな情報が無数に飛び交い、欲しい情報が短時間で手に入るようになった現代において、「じつくり集中して本と向かい合う」。このような習慣が希薄になってはいませんか。

そのような中で、先ほど、18ページの「全国学力・学習状況調査」の中で興味深い結果がありました。

「学校の授業時間以外に、普段、読書をしていると答えた割合」が本市の小中学生はいずれも全国平均を大幅に上回り、小学生で83・6%、中学生で63・3%と、読書が習慣化している児童生徒が多いことが分かります。

今回は、読書週間の定着に向け、どのような工夫が行われているのか、市内の学校3校（松山中・有明中・志布志小）を訪問し、それぞれの取組取材しました。



■松山中取材から■ 多彩な企画で心をつかむ

昼休み時間に松山中学校の図書室を訪問すると、多くの生徒が読書や勉強に取り組んでいました。図書室の室田司書補は「子どもたちに、とにかく読書を楽しんでもらおうと思い、さまざまな企画に挑戦しています。」と話しました。企画の一部を紹介します。



■有明中取材から■

「図書館行こう」を目指して

右の写真は図書室入口前で撮影したものです。時節に合わせたオススメ本が紹介されていて、思わず図書室に入って、本をめくってみたいくなりました。また、左の写真は廊下に貼られていたものを撮影したものです。



こちらにも思わず立ち止まって読んでしまい、続きが気になってしまいました。

廊下の数箇所に、同じような掲示があり、それぞれ気になる書籍が紹介されていました。図書室の江川司書補は、「心を豊かにとの思いで、まずは図書室、読書に興味を持ってもらう仕掛けづくりをしています。図書室をカフェ感覚で利用してほしいです。」と、まずは図書室で生徒たちと接する機会を増やすための取組を紹介していただきました。

今年の6月からは生徒だけでなく保護者にも本の貸出を開始しているとのこと、「子どもと平和学習をしたい」と戦争に関する本の貸出などがあったとのことでした。

毎月23日は親子読書の日です。1日5分だけでも、親子で読書をしたり、本にまつわる会話をしてみたいかがでしょうか。



思わず手に取る「本の栄養剤」こと「よみぐすり」。処方量として、「1日10分くらい読みましょう」と遊び心いっぱい。



本を借りると引ける図書みくじ。ちなみに私も引かせてもらい、「吉」がでました。中にはオススメの書籍も記載されています。



さまざまなジャンルの本を読んでビンゴを目指す。普段読まない新たなジャンルで思わぬ一冊との出会いがあるかも！



推しのアーティストがもしも本だったらこの本かな…。性格や配色にもこだわり、「なるほど」と思わせる組み合わせが完成。

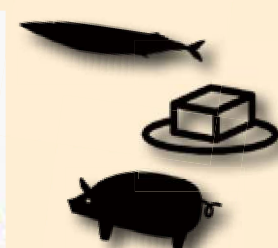
■志布志小取材から■

「読書」を毎日の習慣に

市立図書館では、パソコンやスマートフォン、タブレットから電子書籍が利用できる「しずし電子図書館」サービスを令和5年10月から開始しています。貸出、閲覧を含めて毎年1万件以上の利用があるこのサービスですが、全体利用者のうち3割程度は、志布志小の児童が利用しています。

志布志小学校では、登校後の朝8時から15分間の自由時間を活用してタブ

レットで読書する児童が多く、「サービス開始当初から、スキマ時間に自主的に読書をする習慣が身についている」状況とのことでした。「毎月第3・4火曜に15分間設けている読書タイムにタブレットを活用して電子書籍を読む児童が増えていることも利用が多い一因ではないか」とのこと、一人に一台ずつ配備してあるタブレットを効果的に活用している状況がうかがえました。



「読書の秋」、そして「食欲の秋」です。

市立学校給食センターでは、「物語給食」として、教科書や絵本などで登場する料理にヒントを得たメニューを献立に取り入れ、読書と食育、それぞれの教育の充実を図っています。

今回は、読書月間コラボとして、11月に物語給食を3回予定しています。どんな物語が登場し、どんなメニューが提供されるのか？

提供される給食をきっかけに、子どもたちの読書への興味がさらに広がることや、知っている物語にまつわるメニューを食べることで給食をより身近に感じてもらうことが今から楽しみです！

